

2 児童生徒質問紙調査について

質問は9の項目「基本的生活習慣等」「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等」「学習習慣、学習環境等」「地域や社会に関わる活動の状況等」「ICTを活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」「学習に対する興味・関心や授業の理解度等」「各教科に関する調査の解答状況」になっています。

(1) 結果と状況および今後の取組

主な項目について報告いたします。表の数値は、選択肢のうち「そう思う」「どちらかといえばそう思う」といった肯定的な回答を割合(%)として示しました。

		調査結果のうち特徴的なもの				状況および今後の取組	
1	基本的 生活 習慣	朝食を毎日食べていますか		市	県	差	生活状況では、「朝食の喫食」「就寝時刻」「起床時刻」という基本的な生活習慣は、県平均とほぼ同じです。基本的な生活習慣は学力面や健康面等影響があると推察されます。保健体育の授業や食教育等で睡眠の重要性や食事をバランスよく摂ることを指導することが大切です。
			小	94.2	95.0	-0.8	
			中	95.2	92.0	3.2	
		毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		市	県	差	
			小	88.4	86.4	2.0	
中	78.4	82.3	-3.9				
2	挑戦心、 達成感、 規範意識、 自己有用感、 幸福感等	自分には、よいところがあると思いますか		市	県	差	自身のよさに気づきいろいろな可能性があることを感じることが大切です。これからの社会においては、個々の存在を認め合い、支え合うと同時に、周囲と良好な人間関係を構築することが求められています。
			小	88.5	88.9	-0.4	
			中	87.2	89.0	-1.8	
		先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか		市	県	差	子どもたちと先生がよい関係で過ごしている様子が感じられます。子どもたちも「認めてくれた」という安心感や信頼感があれば、新たな課題にも挑戦し続けることができるのではないのでしょうか。
			小	96.1	95.6	0.5	
			中	95.2	94.7	0.5	
		いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか		市	県	差	いじめはどんな理由があってもいけないという肯定的回答がほとんどです。これまでの学校・家庭・地域の意図的・計画的な指導ばかりでなく、日常のあらゆる場所・機会をとらえて、あらゆる人々が指導してきた賜物だと思います。ただ、「いじめ」を肯定している児童生徒が若干名いることから、今後も指導を丹念にきちんと、そして速やかに行うことを続けていく必要があります。
			小	99.1	98.0	1.1	
			中	96.8	96.7	0.1	
		人の役に立つ人間になりたいと思いますか		市	県	差	災害対策に於いて「自助(災害が発生した時に、まず自分自身の命と安全を守る)」「共助(地域やコミュニティの住民が協力し、助け合う)」「公助(公的機関による救助・援助活動)」という事が言われています。災害でなく学校生活や地域活動に於いても、まずは子どもたち自分自身のことを考えると共に、周囲の人たちのことを考えられる人間になってほしいと願います。
			小	95.2	97.5	-2.3	
			中	97.6	96.9	0.7	
		学校に行くのは楽しいと思いますか		市	県	差	学習、友達、運動会・学園祭・児童会・生徒会行事、クラブ・部活動等に対して楽しさを感じています。学校生活に於いて一つでも多く楽しさを味わい、意欲的な学校生活が送れるようにしていくことが必要です。学校生活に馴染めない児童生徒に対し、寄り添い、学習・生活環境を整えていく必要があります。
			小	87.5	88.0	-0.5	
			中	83.2	86.9	-3.7	

		普段の生活の中で、 幸せな気持ちになる ことはどれくらいあり ますか		市	県	差	学習成果を感じ友達との交流を楽しみ、また地域では身 近な人々、社会及び自然のよさに触れていると考えられ ます。このことは人々や物事を肯定的に捉え、これから も関わっていききたいという意欲に繋がって行きます。中 学3年生は、思春期を迎えるとともに進路選択も控えてお り不安定な時期になります。様々な場面で自信をもた せ、それを応援してくれる家庭・学校・地域の安定した教 育環境づくりが、なお必要になっていると言えます。
			小	94.2	94.5	-0.3	
			中	92.0	92.2	-0.2	
3	学習習慣、 学習環境等	分からないことや詳 しく知りたいことが あったときに、自分 で学び方を考え、工夫 することはできていま すか		市	県	差	高学年になるにしたがって学習も難しくなります。何を聞 けばいいかわからない、うまく説明できない、相手に迷惑 をかけてしまうかもしれない、何を言われるか等心配して いるかもしれません。 児童生徒にまずは学び方を伝え、工夫したことによって わかる喜びを感じてほしいと思います。
			小	87.5	85.4	2.1	
			中	75.2	79.7	-4.5	
		新聞を読んでいます か。 (小中 週に1回から 3回程度以上)		市	県	差	文部科学省から、「新聞を読む頻度が高い子どもの方 が、平均正答率が高い」という結果が報告されていま す。新聞は、読解力、情報収集力、分析力、説明力、思 考力、表現力等を培うのに格好の素材であり、今後工夫 を加え、学力向上のための良い教材としていく必要があ ります。
			小	18.2	11.3	6.9	
			中	4.8	7.8	-3.0	
4	地域や 社会に 関与 する 状況	地域や社会をよくす るために何かしてみ たいと思いますか		市	県	差	大月市では「ふるさと教育」を推進しています。子供たち に地域の「ひと」「もの」「こと」に関心と愛着をもち、かか わっていかうとする「当事者意識」を高めようとしていま す。ふるさと大月を次の世代にきちんと引き継いでいく責 任を果たそうとする心が育っていると感じます。
			小	83.7	84.9	-1.2	
			中	77.6	77.6	0.0	
5	ICTを 活用 した 学習 状況	あなたは自分がPC・タ ブレットなどのICT機器 で文章を作成する(文 字、コメントを書くこと など)ことができると思 いますか。		市	県	差	電子黒板、書画カメラ、一人一台タブレット端末、Wi-Fi等 の環境整備が行われており、授業で活用されています。 AIドリルに、意欲的に取り組む姿が見られます。これから も学校ではICT機器の活用を推進し、より効果的に活用 する機会を増やしていきたいと思います。
			小	83.7	85.0	-1.3	
			中	87.2	85.4	1.8	
		あなたは自分がイン ターネットを使って情報 を収集する(検索する、 調べるなど)ことができ ると思いますか。		市	県	差	
			小	92.3	92.2	0.1	
			中	92.0	93.1	-1.1	
6	主体的 ・対 話的 な 学習 活動 の 状況	学級の友達との間で話 し合う活動を通じて、自 分の考えを深めたり、 新たな考え方に気付い たりすることができてい ますか		市	県	差	「自分の考えをしっかりと伝える」「工夫して発表する」こと に課題が見られ、授業はもちろん、朝の会等でも機会を 多くし経験させていくことが大切です。小中学校の新学 習指導要領で示されている「課題解決のために必要な 情報を集める」「目的や意図に応じて内容を整理し把握 する」「理由を明確にして、論理的に分かりやすく説明す る」「知っていることやできることを他に転化させて使いな がら、自分の考えを広げ深め、話し合い等の共同作業を 行うことで、最適解を求める」等の力をなお高めていくこ とが求められています。
			小	84.6	88.3	-3.7	
			中	83.2	87.1	-3.9	
		先生は、授業やテスト で間違えたところや、理 解していないところにつ いて、分かるまで教えて くれていると思います か		市	県	差	
			小	92.4	92.5	-0.1	
			中	86.4	87.7	-1.3	
		授業や学校生活では、 友達や周りの人の考え を大切にして、お互い に協力しながら課題の 解決に取り組んでいます か		市	県	差	
			小	96.2	94.6	1.6	
			中	94.4	93.4	1.0	

3 大月市教育委員会事業との関わりについて

令和7年度の大月市学校教育指導重点に於ける教育理念は「夢にむかい 共に学び 共に生きる」となっています。

基幹目標として「ふるさと教育」の推進、また基本目標として「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」等を挙げています。

「ふるさと教育」については、子どもたちと大人たちが共に学ぶことを通して地域ぐるみで豊かな未来を創ること、子どもたちに地域のことに今もこれからもかかわっていかうとする「当事者意識」を培い、生まれ育ったふるさと大月を次の世代にきちんと引き継いでいく責任を果たそうとする心を育んでいきたいと思ひます。

今年度も夏休みを利用した学習支援（基礎学力の定着と学習意欲の向上）の場として学校単位で5日間の「大月サマースクール」を開催して学力の補充をしています。各校において多くの子どもたちが、学力向上に向け真剣に、意欲的に学習する姿が見られました。

また、「大月っ子楽習サロン」を平日の放課後に実施し、日頃の学習課題に対応する取組が続けられています。これらの取組や、まだまだ改善の余地がある家庭学習の確立と充実に向けての取組を、各学校に引き続き働きかけて、本市の子どもたちの学力の向上を継続的に図り、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことができる子どもたちを増やしていきたいと考えています。